

血液科

1. スタッフ

科 長 (教 授) 小澤 敬也
 外来医長 (講 師) 鈴木 隆浩
 病棟医長 (助 教) 松山 智洋
 医 員 (教 授) 坂田 洋一 (兼)
 (教 授) 古川 雄祐 (兼)
 (教 授) 室井 一男 (兼)
 (准 教 授) 永井 正
 (准 教 授) 三室 淳 (兼)
 (講 師) 竹田津文俊 (兼)
 (講 師) 森 政樹
 (講 師) 尾崎 勝俊
 (講 師) 外島 正樹 (兼)
 (講 師) 上田 真寿 (兼)
 (講 師) 窓岩 清治 (兼)
 (学内講師) 大森 司 (兼)
 (学内講師) 大嶺 謙
 (助 教) 佐藤 一也
 (病院助教) 山本 千鶴 (兼)
 (病院助教) 翁 家国
 (病院助教) 藤原慎一郎
 (病院助教) 畑野かおる
 (病院助教) 多々良礼音 (派遣)

シニアレジデント 6名
 非常勤医員 4名

2. 診療科の特徴

・造血器腫瘍を初めとするすべての血液疾患に対して、充実したスタッフが連携して診療を行っている。急性白血病、悪性リンパ腫、に対する化学療法、抗体療法、放射線療法などの集学的治療、抗胸腺細胞免疫グロブリンによる再生不良性貧血の免疫抑制療法、多発性骨髄腫に対するバルケイド、サリドマイドなどの新規治療等の他にミニ移植、臍帯血移植を含む同種移植、自家移植を行い、良好な成績を得ている。

・認定施設

日本血液学会認定研修施設
 日本輸血細胞治療学会認定教育施設
 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設

・認定医

日本血液学会専門医 小澤 敬也 他14人
 日本血液学会指導医 小澤 敬也 他 8人
 日本内科学会認定医 小澤 敬也 他21人

日本内科学会専門医 森 政樹 他6人
 日本内科学会指導医 室井 一男 他8人
 日本輸血学会認定医 室井 一男 他1人
 日本がん治療認定医 森 政樹 他1人
 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 森 政樹

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数 881人
 再来患者数 17,433人
 紹介率 49.0%

2) 入院患者数 (病名別)

病 名	患者数
急性骨髄性白血病	126
急性リンパ性白血病	37
骨髄異形成症候群	46
非ホジキンリンパ腫	104
ホジキンリンパ腫	11
多発性骨髄腫	15
再生不良性貧血	16
特発性血小板減少性紫斑病	15
移植ドナー	11
造血幹細胞移植患者	27
合 計	408

3) 手術症例病名別件数

病 名	人 数
胆嚢摘出	2
脾臓摘出	1
治療後の消化管穿孔	2
治療前の消化管穿孔	1
治療後の膿胸	1
合 計	7

4) 治療成績

急性骨髄性白血病初回寛解率 79.4%
 代表的悪性リンパ腫初回寛解率 87.0%

5) 合併症例 (外科転科例)

病 名	人 数
胆嚢炎によって胆嚢摘出	2
治療後の消化管穿孔・出血	2
治療後の膿胸	1
合 計	5

6) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

白血病、骨髄異形成症候群	20
悪性リンパ腫	9
原因不明の汎血球減少	1
再生不良性貧血	1
多発性骨髄腫	4
アミロイドーシス	1
合計	36

<剖検数> 5名

<剖検率> 13.8%

7) 主な検査・処置・治験件数

骨髄穿刺	約1,000件
骨髄生検	約50件
遺伝子診断	約100件
細胞表面抗原解析	約400件
白血病初回治療	31件
悪性リンパ腫初回治療	67件
ATG療法	5件
造血幹細胞移植（合計）	31件
同種移植	18件
ミニ移植	8件
臍帯血移植	5件
自家移植	4件
治験AMN107（ニロチニブ）	3件（継続）
治験ODK-0801（WT1測定）	5件

8) カンファレンス症例

<内科モーニングカンファレンス>

- ・関節内出血（血友病B）
- ・意識障害（多発性骨髄腫）
- ・労作時呼吸困難・貧血（AIHA）
- ・不明熱・意識障害（NHL/IVL）
- ・鼻出血
- ・白血球増多
- ・発熱・全身倦怠感・低ナトリウム血症
- ・頸部腫瘍
- ・白血球増多・脾腫
- ・妊娠・血小板減少
- ・頸部リンパ節腫大
- ・咳嗽・縦隔リンパ節腫大
- ・肺門部異常陰影

<血液科症例検討会>

- ・骨髄抑制期間の胆嚢炎
- ・バーキットリンパ腫治療最近の動向
- ・副鼻腔原発B細胞性リンパ腫
- ・未治療慢性リンパ性白血病
- ・慢性骨髄単球性白血病の治療戦略
- ・寛解後早期に中枢神経再発をきたしたM5a症例
- ・Blastic plasmacytoid dendritic cell tumor

- ・骨髄繊維化を伴った急性白血病の症例
- ・血液疾患と精神的アプローチ
- ・難治性特発性血小板減少性紫斑病の治療戦略

4. 事業計画・来年の目標等

各種治験に積極的に参加して新規治療薬の標準化に努める。また、「特発性造血障害に関する調査研究」班（研究代表者：小澤敬也教授）の主導的役割を果たしてきたが、今後も再生不良性貧血、骨髄異形成症候群などの難治性疾患治療法の先駆的開発を行っていく。鉄過剰症治療に関して引き続き研究を進めていく。

急性白血病、悪性リンパ腫という症例数の多い疾患に対しては、新規分子標的療法の導入、造血幹細胞移植療法の適応拡大による治療成績向上を目指す。同時に移植後の難治性GVHD（移植片対宿主病）に対する治療、特に間葉系幹細胞を用いた治療についての臨床試験を推進する。